



<p>干 葉</p> <p>(生育状況等)</p> <p>【生育概況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関東甲信地方は7月18日に平年より1日早く梅雨明けし、7月は平年より気温が非常に高く推移した。このため、出穂が早まり、4月20日結実「ふさおとめ」の出穂期は7月5日、「ふさかがみ」は7月7日、「コシヒカリ」は7月12日で、平年より5～7日程度早くまっている。</li> <li>葉色は平年並みからやや濃く、「コシヒカリ」は葉長が長い傾向にある。</li> <li>成熟期は4月20日播種の「ふさおとめ」が8月7日から、「コシヒカリ」「粒すけ」は8月20日頃からと、収穫は非常に早い事が予測される。なお、収量率の1か月平均値は気温が高い見込みで、成熟期が早まる可能性がある。</li> </ul> <p>(千葉県農林水産部 7月26日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みか多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みが多い見込み。 (気象庁)</p> <p>関東甲信地方は8月29日頃からかなりの高温。 (気象庁)</p> <p>向こう1か月稲葉枯病、セジロウカ、斑点米びら、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)</p>
<p>新 潟</p> <p>(生育概況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主要品種の出穂期(県平均)は、「こしいぶき」で平年に比べ2日早い7月24日、「コシヒカリ」で1日早い8月3日、「新之助」で2日早い8月9日だった。</li> </ul> <p>(新潟県農林水産部 8月21日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みか多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月30日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ごま葉枯病、綿葉枯病、セジロウカ、ツマグロヨコバイ、斑点米びら、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</p>
<p>富 山</p> <p>(7月16日 生育観測は)</p> <p>「てんたかく」・5月2日播種の「てんたかく」の出穂期は、近年より1日遅い7月16日と見込まれる。今後、平年並の気温で推移した場合、成熟期は8月20日頃と見込まれる。</p> <p>「コシヒカリ」・幼穂形成期は、平年に比べ1日早い7月10日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年に比べ1日早い7月31日頃と見込まれる。</p> <p>「てんこもり」・幼穂形成期は、平年に比べ2日早い7月10日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年に比べ2日早い8月1日頃と見込まれる。</p> <p>(生育) 「富富富」 ・幼穂形成期は、近年並の7月13日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は近年並の8月4日頃と見込まれる。</p> <p>(富山県農業技術課 7月16日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みか多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月30日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ごま葉枯病、綿葉枯病、セジロウカ、ツマグロヨコバイ、斑点米びら、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</p>
<p>石 川</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、早生は収穫期、中生は登熟中期～後期、晩生は登熟中期となっている。</li> </ul> <p>(石川県農林総合研究センター 8月23日付)</p> <p>(生育)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みか多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月30日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ごま葉枯病、綿葉枯病、セジロウカ、ツマグロヨコバイ、斑点米びら、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</p>
<p>福 井</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ハナエチゼン」は平年より出穂が早かったことに加え、高温が続いているため、成熟期は平年より早くなる見込み。</li> <li>前期割および未熟粒の発生が懸念される。</li> </ul> <p>(生育) (水田農業レベラアップ委員会技術普及推進部会 8月9日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みか多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月30日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ごま葉枯病、綿葉枯病、セジロウカ、ツマグロヨコバイ、斑点米びら、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</p>
<p>長 野</p> <p>(8月1日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定点圃場の「あきたこまち」の出穂期は7月21日で、平年より7日早かった。これは定点圃場が出穂が最も早かった令和4年と同じで、定点圃場の調査が始まって以来、最も早い出穂期だった。</li> <li>生育は平年より7日程度進んでいると思われる。出穂が早まっているため、成熟期も平年よりかなり早まる(昨年並)ことが予想される。</li> </ul> <p>(松本農業農村支援センター 8月1日付)</p> <p>(生育)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並みか多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みが多い見込み。 (気象庁)</p> <p>関東甲信地方は8月29日頃からかなりの高温。 (気象庁)</p>
<p>滋 賀</p> <p>(農業技術振興センター 水稲作況調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作況調査(5月10日移植)の「みずかがみ」「コシヒカリ」では、草丈は平年並～やや長く、茎数はやや少なく、葉色は平年並～やや濃い。</li> <li>出穂期は、「みずかがみ」が平年より2日早い7月21日、「コシヒカリ」が平年より3日早い7月24日である。</li> <li>県内全域では、移植日や播種条件による生育に差は見られるものの、平年並～やや早く幼穂形成期および出穂期を迎えている。</li> </ul> <p>(滋賀県農業技術振興センター 7月26日付)</p> <p>(生育)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みか多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並みか多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大宮管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は日本海側でほぼ平年並、太平洋側で平年並が多い見込み。 降水量は平年並みが多い見込み。 (気象庁大宮管区気象台)</p> <p>近畿地方は8月30日頃からかなりの高温。 (気象庁大宮管区気象台)</p> <p>向こう1か月セジロウカ、斑点米びらの発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)</p>
<p>兵 庫</p> <p>(8月1日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東南部の極早生品種の「キヌセカリ」、「どんとこい」では、草丈がやや長く、茎数は少ない。高温の影響で生育が進み、出穂は3～5日程度早まる見込みである。一方、普通期の「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」では、草丈は平年並に比べて長く、茎数は「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」ともに多い。主穂重数の進み方も0.5割ほど早い。</li> <li>東北部では、草丈はやや長く、茎数は少ない。出穂期は「コシヒカリ」で平年より3～7日程度早まっており、地域や播種間での生育差が生じている。</li> </ul> <p>(兵庫県農林水産部 8月8日付)</p> <p>(生育)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みか多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 降水量は平年並みか多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大宮管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は日本海側でほぼ平年並、太平洋側で平年並が多い見込み。 降水量は平年並みが多い見込み。 (気象庁大宮管区気象台)</p> <p>近畿地方は8月30日頃からかなりの高温。 (気象庁大宮管区気象台)</p> <p>向こう1か月セジロウカ、斑点米びらの発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)</p>
<p>岡 山</p> <p>(生育状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>早生品種は、出穂が平年より早く始まり、茎数は平年並～少ない。</li> <li>このまま高温傾向が続くと、早生品種の成熟が早まると予想される。</li> <li>中生・晩生品種は、分けつ遅延～幼穂形成期で、茎数は平年並～やや少ない。</li> </ul> <p>(岡山県農林水産総合センター・岡山県農業技術推進協議会 7月23日付)</p> <p>(生育)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みか多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は8月29日頃からかなりの高温。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月斑点米カメムシの発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)</p>
<p>広 島</p> <p>(生育状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「あきたこまち」の出穂期は7月21日で、平年より7日早かった。これは定点圃場が出穂が最も早かった令和4年と同じで、定点圃場の調査が始まって以来、最も早い出穂期だった。</li> <li>生育は平年より7日程度進んでいると思われる。出穂が早まっているため、成熟期も平年よりかなり早まる(昨年並)ことが予想される。</li> </ul> <p>(松本農業農村支援センター 8月1日付)</p> <p>(生育)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月24日～9月23日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みか多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は8月29日頃からかなりの高温。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月斑点米カメムシの発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)</p>

(生育状況等)			
愛 媛	<p>(8月10日現在)「ひめの源」(愛媛県農林水産研究所内水田ほ場)</p> <p>- 6月21日移植、移植後50日頃の茎数は 28.4 本/株で、昨年と同程度。</p> <p>(愛媛県農林水産研究所 8月14日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月24日～9月23日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>四国地方は8月29日頃からかなりの高温。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月のもち病、コブメイガ、ごま葉枯病、縞葉枯病、セジロウカ、ツマグロヨコバイ、トビロウカ、斑点米ねん、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」「ひめの源」への品種変更が定着してきている。</p>
高 知	<p>(7月7日)</p> <p>【早期稲】 - 収穫時期は平年並～やや早く、収穫は「南国そだち」は7月19日頃、「よさこい美人」は7月末から始まっており、「コシヒカリ」は8月初頃からの見込みである。 - 斑点米カラムシ類による落等や高温不稔による減収が懸念される。</p> <p>【普通期稲】 - 草丈、茎数とも平年並で、全体的に穂ね原調に生育しているが、悪いもちの発生が多く、げり込み症状が見られるほ場もある。 - また、斑点米カラムシ類やトビロウカなど、減収の大きな要因となる害虫が多く、注意が必要である。</p> <p>(高知県病害虫防除所 8月2日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月24日～9月23日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>四国地方は8月29日頃からかなりの高温。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月のもち病、コブメイガ、ごま葉枯病、縞葉枯病、セジロウカ、ツマグロヨコバイ、トビロウカ、斑点米ねん、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>
福 岡	<p>(7月16日)</p> <p>【早期水稲(夢つくし、コシヒカリ)】 - 4月中下旬植えの出穂期は7月9～15日程度で、平年並。稈長や穂数は、概ね平年並。 - 東北地域を中心に、ほ場内でイネカメムシの発生が確認されている。</p> <p>【普通期水稲(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど)】 - 6月上旬植えの「夢つくし」は茎数が確保され、中干し時期を迎えている。 - 生育は順調に進んでいるが、ネグリソライカによる被害が大きいほ場が散見される。トビロウカの初発生が、6月下旬に確認されている。</p> <p>(福岡県農林業総合試験場 7月24日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月24日～9月23日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>九州北部地方は8月29日頃からかなりの高温。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>向こう1か月のフタオビコヤガ、斑点米ねん等の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」が中心となる品種構成であるが、「元気つくし」が増強傾向となっている。費では「夢つくし」の拡大を確実している。</p>
熊 本		<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月24日～9月23日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>九州北部地方は8月29日頃からかなりの高温。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの穂むら」はリーディング品種として数回の年々拡大している。</p>
宮 崎	<p>(7月中旬)</p> <p>【作物の生育状況】 - 普通期水稲は分けつ期。</p> <p>(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月25日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月24日～9月23日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>九州南部地方は8月28日頃からかなりの高温。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みさ388」への作付割合が進められている。</p>
鹿 児 島		<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月24日～9月23日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 9月～11月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>九州南部地方は8月28日頃からかなりの高温。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「なつほのか」への移行が急速に進んでいる。</p>

注1：調査及び地方自治体、関係機関等がホームページで公表している資料を本報掲載情報源で取り組み。  
注2：生育状況等(栽培等)発表資料の提供については令和6年8月23日 14時時点での取り組み。  
注3：掲載内容は必ずしも最新ではない。

引用資料:

農作物の生育状況(8月15日現在)(北海道農政部 8月21日)、  
農作物生育状況(8月15日現在)(北海道空知総合振興局 8月21日)、  
農作物生育状況(8月15日現在)(北海道石狩総合振興局 8月21日)、  
農作物生育状況(8月15日現在)(北海道後志総合振興局 8月21日)、  
農作物の生育状況(8月15日現在)(北海道胆振総合振興局 8月21日)、  
農作物の生育状況(8月15日現在)(北海道渡島総合振興局 8月21日)、  
農作物の生育状況(8月15日現在)(北海道日高総合振興局 8月21日)、  
農作物の生育状況(8月15日現在)(北海道檜山総合振興局 8月21日)、  
農作物の生育状況(8月15日現在)(北海道上川総合振興局 8月21日)、  
農作物生育状況調査の概要(8月15日現在)(北海道留萌総合振興局 8月21日)、  
農作物の生育と農作業の進捗状況(8月15日現在)(北海道オホーツク総合振興局 8月21日)、  
稲作生産情報高温対策臨時号(青森県 8月9日)、  
岩手県内の水稲の出穂状況(8月8日現在概況速報)について(岩手県農林水産部農業技術普及課 8月9日)、  
令和6年度産仙南稲作情報(第6号)(宮城県大河原農業改良普及センター 8月15日)、  
仙台北稲作情報2024(第7号)(宮城県仙台北農業改良普及センター 8月19日)、  
作況ニュース(第6号)(秋田県農林水産部 7月19日)、  
酒田・飽海米づくり情報第12号(山形県庄内総合支庁酒田農業技術普及課 8月22日)、  
稲作だより第10号(山形県最上総合支庁農業技術普及課 8月23日)、  
主要な農作物の生育情報令和6年度第5号(令和6年8月6日現在)(福島県 8月6日)、  
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 8月9日)、  
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 8月2日)、  
水稲生育診断速報2024No.6(栃木県農政部経営技術課 8月16日)、  
水稲の生育状況と当面の対策第5報(千葉県農林水産部 7月26日)、  
水稲の生育状況と今後の管理対策(第8号)(新潟県農林水産部 8月21日)、  
TACS情報第8号(富山県 7月16日)、  
台風10号の接近に伴う被害防止対策について(石川県農林総合研究センター 8月23日)、  
稲作情報No.17(水稲レベルアップ委員会技術普及推進部会 作成:福井県農業試験場、福井米戦略課、JA福井県中央会 8月9日)、  
令和6年度稲作技術普及情報第15号(松本農業農村支援センター 8月1日)、  
令和6年度稲作生育診断情報No.4(滋賀県農業技術振興センター 7月26日)、  
令和6年度兵庫県農業気象技術情報第4号(8月情報)(兵庫県 8月2日)、  
高温による水稲の品質低下防止対策と病害虫防除の徹底について(岡山県農林水産総合センター・岡山県農業気象技術担当者会議 7月23日)、  
2024年産‘ひめの凛’の生育状況(愛媛県農林水産研究所 8月14日)、  
令和6年度病害虫発生予察7月月報(高知県病害虫防除所 8月2日)、  
主な農産物の生産状況(令和6年7月16日 専技情報より抜粋)(福岡県農林業総合試験場 7月24日)、  
令和6年度病害虫発生予報第4号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 7月25日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(8月22日札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(8月22日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(8月22日気象庁)、  
北陸地方こう1か月の天候の見通し(8月22日新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(8月22日大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(8月22日広島地方気象台)、  
四国地方こう1か月の天候の見通し(8月22日高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(8月22日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(8月22日鹿児島地方気象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(8月20日札幌管区気象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(8月20日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(8月20日気象庁)、  
北陸地方こう3か月の天候の見通し(8月20日新潟地方気象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(8月20日大阪管区気象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(8月20日広島地方気象台)、  
四国地方こう3か月の天候の見通し(8月20日高松地方気象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(8月20日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(8月20日鹿児島地方気象台)、

早期天候情報(8月22日14時30分)(気象庁)、

エルニーニョ監視速報(No.383)(気象庁 8月9日)、

令和6年度病害虫発生予報第6号(農林水産省 8月7日)、  
令和6年度産水稲の10a当たり平年収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月12日)